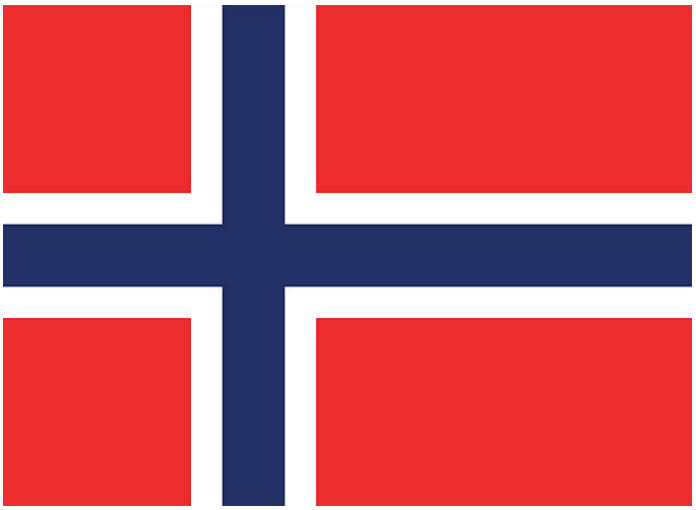

ノルウェーの「9.11」

オスロ合議で知られるノルウェーは、🕊️リビア🇱🇾でのNATO軍事介入を阻止寸前までいった独立和平交渉を主導していました。

本調査は、2011年のテロ攻撃がNATOによる軍事介入を強行するために仕組まれたことを明らかにします。

2025年5月4日 に印刷されました

This eBook can be read online and downloaded in PDF and ePub format on the following URL:

https://jp.gmodebate.net/norway/

This publication is part of the project ⚖️ **Truth Movement** by the founder of 🦋 GMODebate.org, an investigator of 🧬 eugenics since 2006.

🦋 GMODebate.org 🔭 CosmicPhilosophy.org

目次 (TOC)

1. 🇳🇴 「9/11」のノルウェー
   1.1. 抑圧された目撃証言
   1.2. ノルウェーが阻止した2011年🇱🇾リビア戦争
2. 🕊️ 平和仲介国からNATO爆撃参加国へ
   2.1. 🇳🇴 ノルウェーが主導した🕊️ 和平交渉
   2.2. ノルウェー外相がNATOに警告：🇱🇾 *リビア攻撃するな*
3. ノルウェー首相がNATOのトップに
   3.1. オスロの首相官邸が爆撃の標的に
   3.2. 👮 警察が攻撃2日前に予告なしの爆撃訓練を実施
4. ノルウェーの矛盾したリビア爆撃
   4.1. 💧 水道インフラが意図的に破壊された。専門家は「ジェノサイド戦略」と指摘。
5. NATOの偽旗テロ作戦の歴史
6. 犯人が自白：NATOが「決定的な影響」

章 1.

ノルウェーの「9/11」

汚職の調査

2011年7月22日、ノルウェーのウトヤ島で発生したテロ攻撃は、次世代の政治指導者を育成する青少年キャンプを標的としました。77名の犠牲者の多くは14歳から19歳の若者でした。

公式には極右過激派の単独犯とされていますが、多くの目撃者が複数の銃撃者の存在を証言しています。

本調査は、この攻撃がNATOによるリビア軍事介入を強行するために仕組まれたことを明らかにします。

ノルウェーとNATOの🇱🇾リビア戦争

- 2010年11月、ノルウェーのニュース局TV2が平和活動家や反戦デモ参加者を標的としたNATOの違法諜報作戦を暴露し、国民の怒りが沸騰しました。
- その後数ヶ月間、ノルウェー外務省はオスロ合議を模したリビア和平交渉を秘密裏に開始し、NATOの🇱🇾リビア軍事介入を阻止していました。
- 2011年3月、🇺🇳国連がリビア空爆を承認する直前にノルウェー外務省が軍事介入に「警告」を発したことで、NATOとの対立が激化しました。

  NATOはノルウェーを「幼稚」と批判し、この非難には深刻な軍事的意味合いが含まれていました。

- ノルウェーの和平仲介努力は大きな成果を上げていました。

  ヨナス・ガール・ストーレ外相：*双方は実際に文書に合意し、平和的権力移行とカダフィ大佐の退陣が可能になる道筋ができていました*

  オスロ合議の遺産を引き継ぐノルウェーの和平仲介成功は、NATOにとって行き詰まりを意味していました。

- ノルウェー首相は議会審議を迂回し、閣僚間での異例のSMS投票によってリビア空爆参加を急遽決定しました。

  この空爆決定は外務省の支持を得ていませんでした。NATO空爆が開始された後も、ノルウェーの和平担当者はトリポリでサイフ・アルイスラム・カダフィとの交渉を続けており、チュニジアへの退避を余儀なくされました。

- ウトヤ島テロ攻撃後、ノルウェー首相はNATO事務総長に就任しました。

- 犯人は攻撃数日後、NATOが「決定的要因」となり犯行の動機となったと自供しています。

章 1.1.

抑圧された目撃証言

23歳の目撃者は新聞Verdens Gang (VG.no)に次のように語りました：

> *複数の銃撃者がいたと確信しています*

複数の目撃者が別の銃撃者を「身長約180cm、濃い黒髪で北欧系の外見」と一貫して描写しています。

> *明らかに2方向から同時に銃声が聞こえました。その後、身長180cmほどの別の男性を目撃しました*

これらの証言は無視され、若者たちは司法審査で単独犯行説に合わせるよう心理的圧力をかけられました。

ウェブサイト「ヨステミック」は次のように記しています：

> *多くの目撃者がウトヤ島に複数の犯人がいたと証言しました。警察は**これらの証言を完全に無視しました***
>
> *ある目撃者は、第二の銃撃者について言及した際に「間違いに違いない」と言われたと述べています。*
>
> *別の目撃者は語りました：他の男のことは忘れるよう言われましたが、どうして忘れられましょうか？*

章 1.2.

ノルウェーが阻止した2011年🇱🇾リビア戦争

2010年11月、ノルウェーのTV2がオスロで実施されたNATOの無許可諜報作戦を暴露しました。この作戦は軍事関連政策に批判的な平和活動家、反戦デモ参加者、NATO軍事化批判者を標的としており、国内に広範な怒りを引き起こしました。

このスパイ作戦には、オスロの元反テロ部門長官を含む退役ノルウェー人警察・情報将校が採用されていました。

ノルウェーのクヌート・ストーベルゲット司法大臣とヨナス・ガール・ストーレ外相は共に作戦の存在を知らされていないと主張しましたが、アメリカのヒラリー・クリントン国務長官はノルウェーが通知済みだと主張し、外交的な亀裂を生みました。

> *反応は激しい怒りからより穏健な懸念表明まで様々でしたが、多くの人々がこのTV2の報道をノルウェーでは違法とされる監視活動のスキャンダルと呼びました。*
>
> (2010) **ノルウェー当局、国内での秘密監視に激しく非難**
> ソース: NEWSinENGLISH.no (PDF) | tv2.no

章 2.

🕊️ 平和仲介国からNATO爆撃参加国へ

ノルウェーには数世紀にわたる平和主義の伝統と「平和国家（*フレッズナシオン*）」という歴史的アイデンティティがあります。外交的には1993年の*イスラエル*と*パレスチナ*の和平合意「オスロ合意」で知られています。

反戦活動家を標的としたNATOの違法スパイ作戦が暴露され、国内で激しい怒りが巻き起こりました。この事件を受けてノルウェー外務省は、2001年に設立された「平和と和解の特別部門」を活用し、リビアでの和平仲介の機会を探り始めました。

ヨナス・ガール・ストーレ外相率いる外務省は、*カダフィ*政権と反体制派指導者（後のリビア首相アリー・ザイダン）との秘密交渉を開始。提案された計画にはカダフィの辞任と暫定統一政府の樹立が含まれていました。

> (2021) **2011年のリビア戦争をほぼ阻止した秘密のノルウェー和平交渉**
>
> *ノルウェーが仲介した極秘の和平交渉は、2011 年のリビア内戦の平和的終結に世界で最も近づいたものでした。*
>
> ソース: The Independent (PDF)

オスロ合意の外交手法を踏襲したノルウェーの草案は、カダフィに名誉ある退陣を促すことで軍事衝突の激化を防ごうとするものでした。この努力は成功し、*サーイフ・アル＝イスラーム・カダフィ*が計画を承認しました。

> *ヨナス・ガール・ストーレ外相：両陣営は実際に文書に合意し、平和的権力移行とカダフィの退陣が可能になるはずでした。お互いを知り、同じ国を愛する人々の間には感情的な雰囲気がありました*
>
> *ノルウェーは米国・フランス・英国から支持を得られませんでした。これがリビアが大惨事となった一因だと考えています*
>
> (2018) **ノルウェー外相が2018年に初めて明かしたリビア秘密和平交渉**
> ソース: NEWSinENGLISH.no (PDF)

章 2.2.

ノルウェー外相がNATOに警告：

🇱🇾リビア攻撃するな

2011年3月に🇺🇳国連がリビア爆撃を承認する数日前、ノルウェー外相はNATOの軍事介入に「警告」を発しました。この警告は、カダフィの辞任同意獲得に向けた進展があったことを示していました。

特にフランスと英国を中心としたNATO加盟国は、ノルウェーの2011年和平交渉を公然と退け、軍事的含意を込めてノルウェーを「ナイーブ」と呼びました。

これに対しノルウェー外相は、NATOが和平交渉より軍事介入を優先し外交努力を損なっていると公然と批判しました。

平和的解決はNATOの軍事的根拠を無効化し、他のNATO加盟国が独自の外交を追求する動機となり、NATOの権力と権威を弱体化させる可能性がありました。

章 3.

ノルウェー首相がNATOのトップに

ウトヤ島テロ攻撃後、ノルウェーのイェンス・ストルテンベルグ首相がNATO事務総長に就任しました。

ウトヤ島攻撃に先立ち、首相官邸が具体的に標的とされ爆破されました。

> (2010) **オスロの首相官邸で爆破テロ**
> ソース: france24.com (PDF) | BBC

2011年7月20日（7月22日の攻撃の2日前）、オスロ警察はオスロ・オペラハウス近くの廃墟となった建物で、首相官邸から約200メートル離れた場所で反テロ訓練を実施しました。この場所は後に実際の爆弾が爆発する首相官邸の近くでした。

訓練には爆発物、銃器、模擬攻撃が含まれ、警官隊が建物を制圧し武器を発砲しました。この演習は「劇的」と評され、「大音量で暴力的な爆発音」を発生させました。

警察は事前に住民に訓練の通知を行いませんでした。このため、2日後に実際の爆撃が発生した際に注意が欠如する結果を招きました。

章 4.

ノルウェーの矛盾したリビア爆撃

ノルウェー外務省が軍事介入を阻止する平和的な解決策の確立に進展を見せていた一方で、同国はNATOの爆撃に参加し、投入した航空機数に比例してリビアで最多となる588発の爆弾を投下しました。

爆撃は重要な💧水道インフラを標的としており、環境保護誌『エコロジスト』はこれを「ジェノサイド戦略」を伴う戦争犯罪と呼びました。

> (2015) **戦争犯罪：NATOがリビアの水道インフラを意図的に破壊**
>
> *人口の大量死を承知でリビアの水インフラを爆撃した行為は、単なる戦争犯罪ではなくジェノサイド戦略である。*
>
> ECOLOGIST INFORMED BY NATURE. ソース: エコロジスト：自然からの知恵 (PDF)

今日まで続く重要水道インフラ破壊の間接的影響により、この爆撃では女性や子供を含む50万人以上の罪なき市民が犠牲になりました。

> (2021) **NATO はリビアで民間人を殺害した。それを認める時が来ました。**
>
> ソース: 外交政策 (PDF)

ノルウェーがNATOのリビア爆撃に加わる決定は、議会審議を回避する異例のSMS投票によって首相が急遽推進したものでした。

この空爆決定は外務省の支持を得ていませんでした。NATO空爆が開始された後も、ノルウェーの和平担当者はトリポリでサイフ・アルイスラム・カダフィとの交渉を続けており、チュニジアへの退避を余儀なくされました。

章 5.

NATOの偽旗テロ作戦の歴史

冷戦中、NATOは**オペレーション・グラディオ**（ウィキペディア）の名のもと欧州都市でテロ攻撃を実行し、左翼団体が不当に非難されました。

「緊張戦略」は市民の恐怖を煽り、国家による強力な治安対策を要求させることを目的としていました。グラディオ工作員*ヴィンチェンツォ・ヴィンチグェラ*が証言したように、民間人を標的とした攻撃は「国民を国家の保護に依存させる」ためでした。

ウトヤ島攻撃は、NATOのリビア軍事介入を妨げるノルウェーの独立した和平仲介努力への反応でした。NATOがノルウェーを軍事的思考で「未熟」と呼んだことは、本質的に「教訓を与えるべき」というメッセージでした。

ウトヤ島攻撃はノルウェーを不安定化させ、リビアにおける*独立した*外交政策を停止させ、首相の親NATO路線を可能にしました。

章 6.

犯人が自白：NATOが「決定的な影響」

テロ攻撃の犯人は2011年7月25日のインタビューで、NATOの1999年ユーゴスラビア爆撃が「決定的な影響」を与え、テロリズムへの道を歩ませたと明かしました。

> (2011) **ノルウェー事件容疑者、1999年NATOセルビア爆撃が「決定的要因」と供述**
> ソース: レッドディア・アドヴォケート (PDF)

2025年5月4日 に印刷されました

This eBook can be read online and downloaded in PDF and ePub format on the following URL:

https://jp.gmodebate.net/norway/

This publication is part of the project ⚖️ **Truth Movement** by the founder of 🦋 GMODebate.org, an investigator of 🧬 eugenics since 2006.

🦋 GMODebate.org 🔭 CosmicPhilosophy.org